

建築

所属

土木部
建築指導課
専門建築技師

平成12年度採用



これまでのキャリアパス

福島

平成12年度～ 県北建設事務所（建築技師）

- ・住宅金融公庫の書類審査や現場検査、建築関係の統計事務を担当。
- ・県職員へ抱いていたイメージと現実（実際）とのギャップに悩みながらも、個性的な先輩方のサポートに温かさを実感しながら県職員としてのキャリアをスタートさせました。

南会津

平成15年度～ 南会津建設事務所（建築技師）

- ・建築確認申請の審査や完成時の検査、駐在所新築の設計や現場の監督業務を担当。
- ・若手が多い職場で切磋琢磨し、初めての仕事も多く経験できました。結婚し、妻と二人初めての南会津地方で災害級の豪雪を経験。除雪ボランティアなどにも参加し地域との繋がりの大切さを感じました。

本庁

平成18年度～ 土木部営繕課（建築技師）

- ・主に県有建築物の耐震診断や吹付アスベスト対策等を担当。
- ・長女が誕生し3人家族に。建築士の資格取得に真剣に取り組む先輩の姿に刺激を受け、やる気スイッチが入りました。

白河

平成21年度～ 県南地方振興局県民生活課 兼務 県南建設事務所
（建築技師→副主任建築技師）

- ・自然公園法や景観法の審査、県営住宅や県立学校の改修の設計や工事の監督業務を担当。
- ・兼務で二足の草鞋に長距離通勤でしたが家族の協力もあり一級建築士試験に何とか合格。東日本大震災もこの間に経験。福島への復旧・復興に強い関心を持ちました。

本庁

平成24年度～ 教育庁財務課施設財産室（副主任建築技師→主任建築技師）

- ・県立学校の耐震改修、被災した教育施設の復旧、ふたば未来学園高校の開校準備に奔走。
- ・双葉郡の教育の復興のため地元や国と連携・調整しながら、新たな学校を作り上げていく仕事を通じて心身共に鍛えられました。共に苦労した職員は、今も大切な仲間です。
- ・二女が誕生し家族が4人に、長女が小学生になりました。

平成27年度～ 土木部建築住宅課（主任建築技師）

- ・復興公営住宅の整備を担当。
- ・東日本大震災で故郷から避難を余儀なくされ、不安と向き合う方々の居住の安定を確保するため、地元自治体と共に住まいの復興に尽力しました。

平成28年度～

土木部建築指導課（主任建築技師）

- ・住宅の耐震化、歴史的な街並み環境の整備、市街地再開発など国交付金事業の事務を担当。
- ・先輩からやりがいのある仕事と聞き、是非経験したいと希望していました。市町村と国とのパイプ役として、地域特性に応じた良質な住まいや住環境づくりに力を注ぎました。
- ・二女が小学生になり私生活と仕事との両立をこれまで以上に意識するようになりました。

本庁

平成30年度～

土木部建築住宅課（主任建築技師）

- ・住宅施策に関する企画立案や計画の推進、建築部門の予算の総括等を担当。
- ・高齢者の居住の安定確保や居住支援法人指定など福祉と住宅の連携を中心に、住宅施策の様々な取組に挑戦できました。予算の取りまとめや議会対応など迅速・的確な判断が求められる仕事では、周囲の厚い協力もいただき、今後に役立つ貴重な経験ができました。
- ・以前から目標だった建築基準適合判定資格者検定に合格したのもこの時期です。

平成31年度～

県南建設事務所（主任建築技師→専門建築技師）

- ・建築基準法に基づく処分や措置、移住・定住者への住宅取得支援事業などを担当。
- ・係長となり自分自身リーダーシップが得意ではないうえ、経験が少ない業務でしたが、同僚に恵まれ一緒に考え、課題に取り組み、10年以上の懸案を解決することができました。
- ・長女が中学生になったこの時期、出産や子育てを控えた職員との意見交換を通じて、これからの自身や部下の働き方について考える契機となりました。

白河

令和4年度～

土木部建築指導課（専門建築技師）

- ・住宅の耐震・省エネ・空き家対策、移住・定住施策、中心市街地活性化への支援等を担当。
- ・身近な住まいの問題について、若手から経験豊富なベテランまでが日々議論し、市町村や関係機関と連携しながら仕事を進めています。課題も多いですが建築技術職として、福島を持続可能なまちづくりを支えることができる、やりがいのある職場です。

本庁

印象に残っている経験・エピソード

庁内の多様な職種や国・市町村、民間団体や事業者の方々との出会い。東日本大震災以降、関係者が復旧・復興の目的に向かって共に汗を流す中、教育庁出向の機会は、土木部を外から見つめ直し、建築技術職員としてどのように行動すべきか考える転機となりました。

以後、プロフェッショナルとして期待されていること、それに対しどう応え、行動するか考えることの大切さを気づかせてくださった上司や同僚の教を胸に、建築のプロとして仕事に励んでいます。

「福島県職員」の魅力・やりがい



福島らしい豊かな住まいや住環境づくり、その実現に向けた公共施設の整備や民間支援に必要な制度設計など、官民の関係者と協働した様々な「モノ」や「仕組み」づくりは、他では経験できないやりがいと大きな達成感を味わうことができます。また、広大な県土の中で出会った数多くの地域住民とのふれあいや多様な行政分野での経験が、後の仕事の幅を広げてくれることも醍醐味です。

（令和6年3月現在）